

めぐみイエス・キリスト教会

2018年4月22日(日) 第四主日礼拝
週報「通算第402号」



2018年標題聖句

使徒の働き27章22節～26節

27:22 「しかし、今、お勧めします。元気を出しなさい。あなたがたのうち、いのちを失う者はひとりもありません。失われるのは船だけです。

27:23 昨夜、私の主で、私の仕えている神の御使いが、私の前に立って、

27:24 こう言いました。『恐れてはいけません。パウロ。あなたは必ずカイザルの前に立ちます。そして、神はあなたと同船している人々をみな、あなたにお与えになったのです。』

27:25 ですから、皆さん。元気を出しなさい。すべて私に告げられたとおりになると、私は神によって信じています。

27:26 私たちは必ず、どこかの島に打ち上げられます。」

主日礼拝毎週日曜日 午前10時～11時

聖書研究・祈祷会 毎週水曜日 午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2018年4月22日(第四主日礼拝)

午前10時～11時

司会 鈴木 竜実 牧師 奏楽 佐野 みゆきさん

◎礼拝プログラム

【前奏祈り】

【賛美Ⅰ】 新聖歌265「世人の咎の為に」 p. 416

【交読文】 No.53 ルカの福音書第22章 p. 921

【賛美Ⅱ】 新聖歌392「主の愛のなが内に」 p. 546

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.2 「あなたと共にいつまでも」

【聖書朗読】 ヨハネの福音書14章7節～11節

【祈 禱】

【説 教】 《すでに父を見たのですとは？》 鈴木 竜実 牧師

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝禱後奏】

※聖書箇所 ヨハネの福音書14章7節～11節(新約p. 191下段)

14:7「あなたがたは、もし私を知っていたなら、父をも知っていたはずで
す。しかし、今や、あなたがたは父を知っており、また、すでに父を見た
のです。」

14:8 ピリポはイエスに言った。「主よ。私たちに父を見せてください。そ
うすれば満足します。」

14:9 イエスは彼に言われた。「ピリポ。こんなに長い間あなたがたと一緒にいるのに、あなたは私を知らなかったのですか。私を見た者は、父を見たのです。どうしてあなたは、『私たちに父を見せてください。』と言うのですか。

14:10 私が父におり、父が私におられることを、あなたは信じないのですか。私があなたがたに言う言葉は、私が自分から話しているのではありません。私のうちにおられる父が、ご自分のわざをしておられるのです。

14:11 私が父におり、父が私におられると私が言うのを信じなさい。さもなくば、わざによって信じなさい。」

●ポイント1「私を知っていたなら、私を見たのなら、父をも」とは？

※ヨハネの福音書12章44節～45節「私を遣わした方」(新約p.188下段)

12:44 また、イエスは大声で言われた。「私を信じる者は、私ではなく、私を遣わした方を信じるのです。」

12:45 また、私を見る者は、私を遣わした方を見るのです。」

※ヨハネの福音書16章28節「イエス様の宣告」(新約p.196下段)

16:28 「私は父から出て、世に来ました。もう一度、私は世を去って父のみもとに行きます。」

●ポイント2「私があなたがたに言う言葉」とは？

※ヨハネの福音書12章48節～50節「私が話した言葉」(新約p.188下段)

12:48「私を拒み、私の言うことを受け入れない者には、その人をさばくものがあります。私が話した言葉が終わりの日にその人をさばくのです。」

12:49 私は、自分から話したのではありません。私を遣わした父ご自身が、私が何を言い、何を話すべきかをお命じになりました。

12:50 私は、父の命令が永遠のいのちであることを知っています。それゆえ、私が話していることは、父が私に言われたとおりを、そのままに話しているのです。」

●ポイント3「私が父におり、父が私におられる」とは？

※ヨハネの福音書10章30節「ユダヤ指導者への言葉」(新約p.157上段)

10:30 「私と父とは一つです。」

◎先週のメッセージの概要【道、真理、いのちとは？】

《十二使徒の一人、デドモと呼ばれたトマスは時折、非常に重要な質問をして、奥義とも言えるような言葉と教えをイエス様から引き出しています。その答えが、「私が道であり、真理であり、いのちなのです。」と言うことなのです。

「道」とは？

それは救いに至る道であり、いのちへの道であり、父なる神様の御もと、すなわち御国への天国への道を指しています。イエス様だけが道なのです。

また、別な意味もあります。それはクリスチャンが、人生における様々な分岐点に達した時などに、どの道を進むべきかをも教えています。

ダビデは、『あなたの道を主にゆだねよ。主に信頼せよ。主が成し遂げてくださる。』と言っています。私たちは、主イエス様にゆだねるのです。

「真理」とは？

真理とは本当のこと、まことの道理であり真実を指し示します、今まで多くの哲学者が考え求め続けて来たことは、『人間はどこから来て、何の為に存在し、そしてどこに行くのか。』と言うことなのです。私たちは、イエス様によって創造されました。創造主なるお方と親しい交わりをし、神様の御わざと恵みを喜ぶ為に、私たちは存在するのです。故にイエス様こそが真理なのです。

「いのち」とは？

使徒ヨハネは、「この方にいのちがあった。このいのちは人の光であった。」と言っています。人間には、一度死ぬことと、死後にさばきを受けることが定まっています。これから逃れられる者は、だれ一人もいません。

イエス様が言われたいのちとは、それは永遠のいのちのことです。罪を悔い改め、イエス様を救い主として心から信じ、口で「イエス様は私の主です」と告白する者は、罪が赦され、救われ、永遠のいのちをいただけるのです。

ヨハネが第一の手紙を書いた理由は、「イエス様を信じる者は、永遠のいのちを持っていることを、あなたがたによくわからせる為です。」と言うことを伝える為だったのです。》

◎お知らせ

1. 次回の礼拝は、4月29日(日)午前10時から行ないます。また聖書研究・祈禱会は、4月25日(水)午後6時15分です。

2. 鈴木師は、4月26日(木)東京プレイヤーセンターお昼の礼拝の奏楽です。

